

2013年10月11日 297号

共同センターNEWS

憲法改悪反対共同センター

文京区湯島 2-4-4 全労連会館 03-5842-5611 (FAX5842-5620)

<http://www.kyodo-center.jp> mail: move@zenroren.gr.jp

秘密保護法

「超党派の議員と市民の勉強会」開催

民主、みんな、共産、生活、社民各党議員と無所属の有志議員 12 名の議員が呼びかけた「秘密保護法を考える超党派の議員と市民の勉強会」が、10月10日の午後、参議院議員会館で開催されました。

勉強会は、「秘密保護法案に懸念をもつ超党派の国会議員が呼びかけ人となって、同法案の問題点を明らかにしていく勉強会を開いていくことになりました。各党の議員だけでなく、広く関係各方面にも案内し、第1回を開催することになりました」と呼びかけたものです。

勉強会には国会議員 20 名を含む約 300 名が参加。多数が立って参加していました。多数マスコミの取材があり、夜のニュースステーション等で報道されました。

密約がなかったとウソをついてきた自民党に秘密保護法の国会提出の資格ない

司会は、みんなの党の山田議員。初めに、社民党の福島議員が「国会開会 5 日前に、超党派の議員と、市民の皆さんでこのような勉強会が開催できたことを喜びたい。今後、5 回程度開催したいと考えています。力を廃案にして行きましょう」とあいさつ。

次に、元毎日新聞政治記者で、沖縄返還をめぐる外務省機密漏洩事件の当事者の西山太吉さんが基調講演を 30 分行いました。西山さんは、先日亡くなった山崎豊子さんの「運命の人」のモデルです。

西山さんは、1972 年の沖縄返還密約を示唆する機密伝文を入手して国家公務員法違反で有罪となつたご自分の事件を語り、「一貫してどんな客観的資料が出てても密約はなかったとウソをついてきた自民党政権に秘密保護法案を国会提出する資格はない」と語りました。また、自民党が取引のように出している「知る権利」を書くなど細目の議論に乗ってはいけません。外務省の場合でも、「部内秘密」として扱われ、2~3 人しか知らない秘密もあり、今あえて「特別秘密」を定める必要がない。さらに、長年かけて努力してきた情報公開法の改正が民主党政権下で廃案となり、永遠に出て来ないことになったことが問題だと語りました。



4名の憲法学者、弁護士、日本ペンクラブ代表らがリレートーク

次に、日本体育大学の清水雅彦氏ら 4 氏がリレートーク。上智大学の田島氏は、「民主党の有識者会議が基盤となっている。世界の流れは情報を制限するのではなく、情報を公開する、知る権利が大切という流れであり、情報をとぎす法案は問題。結果として、内部告発を狭めることになるだろう。国会議員は、二重三重の網がかけられ、国政調査権の活動はできなくなり、仕事ができなくなるだろう」等と語りました。

その他、日本弁護士連合会前事務局長の海渡氏、日本ペンクラブの篠田氏が、それぞれの立場から秘密保護法の問題点を指摘し、廃案に向けてとりくむことが大切と語りました。

国会議員も「廃案に向けて奮闘する」と決意語る

終わりに、参加した国会議員が廃案に向けた決意を語りました。呼びかけ人の 12 氏で参加していた日本共産党の赤嶺議員、仁比議員、社民党の福島議員、そして呼びかけ人ではないが参加していた生活の党の小宮山議員、日本共産党の辰巳参議院議員が発言しました。

日本共産党の赤嶺議員は、沖縄でたたかってきたが、日本政府が隠している日米同盟の秘密は、沖縄の人々の生活と財産にかかわっている。これを国民の前に明らかにすることを仕事として来た。秘密を

隠すような秘密保護法を廃案にするために、皆さんと力を合わせて奮闘したいと語りました。

次回に勉強会は、10月16日（水）11:00 から 12:30 まで、衆議院第一議員会館国際会議場で開催されます。日本弁護士連合会の秘密保全法対策本部長代行の江藤洋一氏と、新聞労連副委員長・琉球新報記者の米倉外昭氏が講演されます。

○呼びかけ人の12氏 敬称略

【民主党】近藤昭一、江崎孝 【みんなの党】川田龍平、山田太郎 【共産党】赤嶺政賢、仁比聡平
【生活の党】村上史好、主浜了 【社民党】照屋寛徳、福島瑞穂 【無所属】糸数慶子、山本太郎

//各地・団体のとりくみ//

自治労連

JR巢鴨駅で「9の日」宣伝行動

第185回臨時国会の開会（10/15）が一週間後と迫った10月9日、自治労連本部書記局定例の9の日宣伝行動を東京JR巢鴨駅駅頭で実施しました。宣伝には役職員27人が参加、6人が訴えを行い、スタートしたばかりの「かがやけ憲法署名」の署名を12筆集めました。

橋口副委員長は「参議院選挙の結果により『黄金の3年間』を手に入れたと言われているが、国民の80%が景気回復の実感がわからない『アベノミクス』と消費税増税、TPP参加阻止や反貧困運動の拡大、原発再稼働反対を含む再生可能エネルギー問題、改憲反対の世論など、政権基盤

を崩しかねない要因が存在している。安倍政権の暴走を許さない運動を大きくし、一緒に声をあげていこう」と訴えました。

野村委員長は、「シリアへの武力行使を世界が許さなかったように、武力行使ではなく話し合いで解決するのが国際世論の流れになっている。平和の祭典ともいわれるオリンピックを誘致した日本政府は、被曝国としても『核兵器』の危険性を明らかにし、一刻も早くを非人道的なものとして世界に訴えていくべき」、「開発段階から何度も何度も墜落事故を繰り返しているオスプレイを飛ばすということは、国民のいのちをさらすもの。今こそ、国民一人ひとりが憲法を守る声をあげていこう」と訴えました。



全労連

「かがやけ憲法署名スタート集会」16日開催

全労連は、改憲を許さず、憲法をいかし、くらし・雇用の改善をめざす世論を大きく広げていくために、全国5コース、40日間の「かがやけ憲法！全国縦断キャラバン」とともに、「かがやけ憲法署名」のとりくみを10月から開始しています。3年間で500万人の署名成功のために、「かがやけ憲法署名スタート集会」を開催します。



●日時 10月16日（水）18:30～20:30

●場所 全国教育文化会7階大会議室

●スケジュール

◆国会情勢報告 日本共産党参議院議員 仁比聡平氏

◆学習講演 講師 川村俊夫氏（憲法会議代表幹事）

「集团的自衛権容認を許さない」

◆各組織からの決意表明

憲法を学び、生かし、平和な日本と世界を！